

Title	フオン・クリス著 支那経済財政論
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1917
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.11, No.2 (1917. 2) ,p.316(145)- 317(146)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19170201-0145">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19170201-0145</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

期間に比例せるを觀る。

次に利子歩合が一割に騰貴せば、此等財貨の現價は皆幾分か減少するに至るものなるが、其下落の程度も亦各財貨の持續期間に比例せり。詳言すれば、存続年限の長き財貨は最も多く下落し、短きものは其下落の程度比較的少なし。利子歩合が之に反して二分五厘に低落せば、各財貨は皆多少騰貴す可し。例へば土地は利子歩合が五分ならば二千圓なるに、二分五厘に下落せば、其現價は四千圓に騰貴するなり。而かも各財貨は皆一様に土地の如く二倍に騰貴するることなくして、其程度は持續期間、換言すれば割引年限に準じて土地に於けるよりは輕微なり。商品の如く單に一ヶ年間に對して割引せらるゝものに在りては騰貴の程度最も低し。由是觀之利子歩合の騰貴は財貨を下落せしめ、利子歩合の低落は財貨の價格を昂騰せしむるの傾向を有するものにして、且つ各其騰落の程度は財貨の

持續期間の長短に比例するものなりとす。

勿論實際には利子歩合の騰貴せると同時に物價の騰貴すること稀なりとせず。目下歐洲大戰亂の影響を蒙りて各國に於て利子歩合並に物價は戰前に比して一般に騰貴せるが如し。されど此現象たるや以上吾人の説述せる原則と何等衝突する所なきものなりとす。上文に於て利子歩合が上騰せば物價が下落するに至る可しと斷定せしは、財貨の使用價值に何等の變更を來たさることを前提とせるものなり。されど此使用價值たるや利子歩合が時々刻々變動して止まざると同じく時としては増加し、又時としては減少するものなりとす。目下戰爭並に戰爭の醸成せる好景氣の一結果として諸種財貨の效用即ち其使用價值大に増加せるのみならず、其増加の程度が利子歩合騰貴の程度に優る所あるを以て物價は一般に騰貴するに至れるものなりとす。

### 批評と紹介

フオン・クリス著『支那經濟財政論』

W. v. Kries, Ueber Volks-und Staats  
haushalt Chinas.

支那は我邦の經濟的寶庫なり、而して此寶庫の鍵は單に「日支親善」又たは「同種同文」等を繰返すことによりて求めらるゝものにあらず宜しく冷靜に研究せざる可からず、然かも之れが研究に當つて最近の財政經濟に對する極めて簡勁にして良好の參考書なかりしは吾人の遺憾とせし處なりしが、今本著出づるに及びて吾人の要求は略ぼ充たされしの感あり。

本書は先づ總論と各論とに分たれ、著者は主として前者に於て支那其者の現時に於ける工業及農業に就きて論述し、即ち専ら原料品輸出國たる同國にとりて所謂新式の工業は單に漢口の

如き上海の如き開港地に見る現象に過ぎず、となし、又た農業に關しては、著者は同國の國民經濟上、此産業を重要視し、殊に之れが改善策として交通機關殊に道路及水路の改修と土地耕作法の改良と、農業資金の潤澤ならんことを以てせり、更に各論としては、先づ商業及關稅政策の條項に於て、現時、同國の關稅に見る現象は銀相場下落と一面生産物の價格が騰貴せしことは多くの場合を通じて從價格の五「パーセント」なる關稅率を三「パーセント」乃至二「パーセント」に低下せしむるに至れり、更に第二の問題としては、内地關稅、内地取引及課稅問題にして以上の條項の下に著者が論せし處は先づ支那其者の國庫收入に就きて千九百十六年の豫算表、地租、鹽專賣、關稅(海關稅及内地關稅)等を述べ、次ぎには課稅組織と内地關稅問題に及び、更に轉じて支那其者に於ける内地商業の形式、價值、特色を論じ、殊に最後の場合の如き

は南方支那、西部支那、中部支那、東部支那、北東部支那、北西部支那、滿洲に分ちて立論し終りに財政上に於ける現時の重要な改革問題を間接的方法と直接的方法とに分ち、前者の下に本位制度と内地關稅を論じ、後者の下に關稅を減少せしむること、其他、財源としての内地關稅を論じ、一步を進めて將來に於ける關稅及租稅制度に及び、殊に直接稅と間接稅とに論及せり、吾人は我邦の讀書子にして支那最近の財政經濟の狀態を知らんとする士に、本書を紹介せんと欲す。(阿部秀助)

正誤。

前號雜錄欄所載「フランソア・ケネーの經濟論」中第一二六頁下段七行目「出血」とあるは「放血」第一二七頁下段十八行目「無償」とあるは「無償」第一三三頁下段九行目「man」とあるは「maur」第一三五頁上段二行目「Ephenemides」とあるは

「Ephenemides」同頁同段三行目「Explicotion」とあるは「Explication」第一三六頁下段十二行目onとあるはon、第一三七頁下段三行目「純收穫」とあるは「純收穫」、第一三九頁上段六行目「適當」とあるは「適當」、第一四〇頁上段十二行目「法則」とあるは「法規」の誤に就き訂正す。

前號(第十一卷) 日次 (大正六年一月號)

論說

- 英國兌換制度の將來 法學博士 堀江 歸一
- ジンフエインの叛亂(下) 慶應義塾 大學教授 占部百太郎
- 歐洲大戰の責任(一) 慶應義塾 大學教授 林 毅陸
- 英國の食料及び原料 法學博士 氣賀 勘重
- 大戰前の獨逸の政策 慶應義塾 大學教授 占部百太郎
- フランソア・ケネーの經濟論 慶應義塾 大學教授 高橋誠一郎
- 戰後の獨逸と内地移民問題 慶應義塾 大學教授 阿部 秀助
- グレンシャムの法則と徳川時代の經濟學說 增井 幸雄
- 戰後の利子歩合 高城仙次郎
- 伊藤重次郎著『交通論』第一篇(阿部秀助) 批評と紹介

編輯主任

堀江 歸一 高城 仙次郎

一冊定價 金二十五錢 郵稅金壹錢五厘

一ヶ年前金 金二圓七十錢 郵 稅 共

編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛

營業に關する用件は發賣元宛

原稿締切期日は發行の前月十日限

大正六年一月廿一日印刷納本 每月一回一日發行

大正六年二月一日發行

三田 禁 轉 載 第二卷一十號

東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾内  
編輯兼發行所 石田 新太郎  
東京市麻布區龍土町七十五番地  
印刷者 金子 榮太郎  
東京市赤坂區新町五丁目四十二番地  
印刷所 金子活版所

發賣元 東京市麴町區有樂町一丁目一番地 叔山書店

振替貯金口座東京二四二七番 電話本局二二三三二番

尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會